

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第300回

トッド・スキナー

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年3月28日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

If you can take one step,
you can take one more.

一歩踏み出せるなら、もう一歩踏み出せる。

トッドリチャードスキナーはアメリカのフリークライマー。彼の登山の成果には、世界中の多くのルートでの最初のフリークライミングとグレード7のクライミングで世界初のフリークライミングが含まれていた。ワイオミング州パインデール生まれ。

Column

これまでの人生や生活の中でも感じてきたことですが、“0（ゼロ）を1にする”ということを求められることがあります。簡単なことではありません。ここでは技術の面だけで話をしますが、スポーツの指導者として従事している私ですが、本校の生徒は私と出会う前からすでに技術は持ち合わせていることから、プレイヤーとしての特性を読み取りながらチームコンセプトとすり合わせていく作業は比較的スムーズにできます。しかし、初心者には完全なゼロ状態から技術を伝え、競技者としてプレーできるように育てることは非常に難しいと感じています。ましてや高校生よりもアンダーカテゴリーで、自分の身体を自由に操ることさえ困難な世代に技術と体の使い方を伝えることはさらに難易度が上がります。そんなプレイヤーたちを次々に上達させ、次のカテゴリーでも活躍するプレイヤーを次々に育てるジュニア世代の指導者の方々は本当に素晴らしいと思います。

今回の言葉に沿って考えると、登山で一歩目を踏み出す時に『右から？左から？足をどこに置く？滑らないかな…体重乗るかな…崩れないかな…』など、ミスが許されない場合は特に躊躇する材料はいくらでもあります。そこで、できる限りのイメージと勇気を振り絞って一歩目を踏み出した時、出す前よりも確実に高い位置に進むことができ、一歩分とはいえこれまでよりも長く自分の進んできた道を振り返ることができるのです。そして何より、踏み出し方のイメージが想像だけではなく確実性がプラスされ、自身を持って進んでいくことができるはず。そういう意味で、今回の言葉にある“もう一歩”は“一歩目さえ出れば”という“覚悟を持つこと”の大切さを説いているのだと思います。

もうすぐ4月を迎えます。多くの方が新しい一歩を踏み出す時期です。4月から本校の仲間になる新1年生、本校を巣立って新たな舞台に挑戦する今年度の卒業生、高校生活最後の年を迎える新3年生、後輩ができることで新たな覚悟が必要となる新2年生、立場は様々です。どんな一歩目を出すのでしょうか。歩くコースも様々です。軌道修正も戻ることも可能だと思います。方向よりも、歩幅よりも、踏み出す勇気が一番必要です！GOOD LUCK!!